平成２７年度　言語活動の充実に係るＮＩＥ実践報告

－【研究テーマ】積極的な表現態度を引き出す言語活動の充実（４年次）－

鹿児島県ＮＩＥ実践校
日置市立東市来中学校
教　諭　　鶴田　　忍

１　はじめに

変化の激しい時代の中，デジタル化が進み，活字離れが著しい昨今，情報機器の普及に伴い，様々な問題が発生している。人間関係の希薄さやコミュニケーションにおける不用意な発言等によって生じる相互不和に悩むなど，言語活動を中心にした相互のかかわりに悩む生徒の姿が見受けられる。このような実態等を踏まえ，平成２４年度からＮＩＥ実践校の指定を受け，国語科での取組からスタートした。２年目からは他の教科や領域での活用が始まり，本校でのＮＩＥの実践に広がりが生まれた。そして，今年度もＮＩＥの実践を通して，生徒たちの言語活動の活性化や充実を目指した。

２　研究テーマ

本校の校訓「学・道・錬」，並びに学校教育目標「自ら学び考え，判断し，行動できる，心豊かでたくましい生徒の育成」を踏まえ，生徒の主体性を育み，積極的な表現態度を引き出すため，「積極的な表現態度を引き出す言語活動の充実（４年次）」と設定し，新聞記事等の活用について研究を行った。

本校では，各教科において言語活動の活性化を目指しており，このＮＩＥの取組においても，ただ書いて終わるのではなく，他者に発信し，良さに気づいたり自分の表現活動に活かしたりする取組も展開したいと考え，本テーマを設定した。

３　研究仮説の設定

⑴　研究仮説

ア　仮説１

> 国語科学習指導の中で，日々のコラムや注目されている話題の記事を基に，週末課題を作成・提示したり，教科書教材と併用して教材化を工夫したりすることで，社会や物事に対する興味・関心を喚起し，語彙を広げたり，論理性を育成したりするなど，生徒の読解力や表現力を育み，積極的な表現態度を引き出す言語活動を展開することができるのではないか。

イ　仮説２

> 作文コンクールや弁論大会，新聞記事，コラムなどの秀文を提供することで，新聞に対する興味・関心を喚起し，感想や考察などをもつことで，生徒の豊かなものの見方や考え方を引き出すとともに，モデルとなる表現を活かしながら自己の表現を工夫するなど，積極的な表現態度を引き出す言語活動につながるのではないか。

ウ　仮説３

> 社会科学習指導の中で，日々のコラムや注目されている話題の記事を導入段階で提示・活用することで，新聞に対する興味・関心を喚起するとともに，学習課題の追究を触発し，解決の手掛かりの獲得につながるなど，課題追究を活性化することができるのではないか。

⑵　研究仮説の設定理由

ア　文章表現や社会事象などに対する興味・関心を高める記事等の教材化
イ　語彙を広げることによる積極的な表現態度の育成
ウ　内容読解を深め，表現力を高める記事等の教材化

エ　優れた表現との出会いを提供することで高まる社会性や国語力の涵養
オ　教科書教材と新聞記事の横断的な活用による国語力の育成

4　研究内容（実践計画より）

⑴　週末課題の作成（継続）
→　生徒の実態に合わせて作成
⑵　語彙を広げる言語事項の学習設定（継続）
→　調べ学習の充実
⑶　論理性を育む要約や見出し，感想文などの作成（継続）
→　要約の徹底，小見出しの工夫
⑷　記事を活用した短文づくり（継続）
→　相手意識や目的意識の確認
⑸　社会科授業における新聞記事の活用（継続）
→　導入での活用
⑹　提供新聞の図書室への設置（継続）
→　購買率の低下，活字離れの解消
⑺　生徒による新聞づくり（新規）
→　見出しや内容の工夫，読み手を意識した表現

5　研究の実際

⑴　新聞記事を題材にしたショートスピーチ
今年度，研究内容⑵～⑷を総合して，新聞記事を題材にしたショートスピーチに全校一斉に取り組んだ。

ア　テーマ「社会の出来事に目を向けて，考えたことを発表しよう」
～新聞を読んで気になる記事について，意見を述べてみよう～
イ　活動の流れ

日時	活動内容	注意点	指導者
９／２～ ９／１２ （国語）	１　新聞読んで題材にする記事を決める。 ２　ワークシートに記事を貼り，記事の載っていた新聞名と日付をメモする。 ３　読めない漢字や意味のわからない語句について調べる。 ４　記事を要約する。	・最近の出来事や過去の印象的だった出来事について書かれた記事の中から，題材を決める。 ・要約文は「いつ・どこで・だれが・なにを・どんなふうに・どうした」がわかるように書く。	国語科
９／１５ （火） ６校時	５　記事を読んで思ったことを書く。 ６　自分の意見を書く	・「自分にできることはなんだろう？」「これからこうしていきたい」という視点で意見を書く。	副担任
９／１６ （水） ６校時	７　要約・感想・意見をもとに，スピーチの原稿を作成する。	６００字～８００字程度 （原稿用紙１枚半～２枚）	副担任
９／２４ （木） ６校時	８　発表練習をする。	原稿を見ないで発表する	副担任

９／２５ （金） ５・６校時	発表（各学級） 学級での発表風景	教師だけでなく生徒も審査を行い，学級の代表者を１名選ぶ。	担任 副担任
１０／３０ （金） 文化祭	学級代表によるスピーチ	 文化祭での発表風景	

⑵　社会科授業における新聞記事の活用（継続）

毎年，夏休みの課題として，新聞記事について感想を書く取り組みを実施している。記事は各自で選ばせていたが，今年度は「社説」に限定し，３年生を対象に取り組んだ。ワークシートに選んだ社説を貼り，その横に感想を書かせた。提出されたワークシートは，文化祭の展示ブースに展示した。

⑶　新聞の図書室への設置（継続）

図書室のスペースの一角に，提供していただいている新聞を設置し，生徒がすぐに手に取れるようにしている。時間がなく，読めない生徒もいることから，いつでも読むことができるように１週間分は棚に置き，その他の新聞は後方に保管している。なんとなく図書室に立ち寄った生徒が新聞を手に取る姿が今年度も見られた。

文化祭での掲示

６　研究の成果と課題

⑴　成果

ア　昨年度までは，ショートスピーチの題材探しを各自の興味のある分野から考えさせていたため，題材の偏りや広がりの無さが感じられていた。また，生徒によっては題材探しで迷ってしまい，その後の原稿作成の時間が取れないということもあった。今年度，新聞記事の中から選ばせたため比較的短時間で題材探しができた。内容についても，娯楽やスポーツなどに偏らず，戦後７０年の記事や原発再稼働，自然災害（火山や台風），人物にスポットをあてた連載記事のようなものまで多岐にわたり，題材に広がりが見られた。

イ　ショートスピーチの内容として記事に対する意見を書かせたが，出来事を客観的に捉え意見を述べている生徒もおり，学級内や文化祭での発表が充実したものになった。
ウ　書くことが苦手な生徒でも，記事の内容があるため発表が極端に少なくなることもなく，人前で発表し聞いてもらい拍手を貰うという体験ができた。
エ　新聞記事を選ぶ際に，一つの出来事に対し，複数の新聞社の記事を比較しながら読んで選ぶ作業をすることができた。
オ　題材選びのために新聞記事を自由に読む時間を授業に取り入れた。このことをきっかけに，今まで目を通さなかった面にも目を通すようになったという声が聞かれた。
カ　社説の感想を書く活動では，初めは読むことを敬遠していた生徒も読むうちに内容について真剣に考え，悩みながらも感想を書こうという姿勢が見られた。

⑵　課題
ア　家庭での新聞購買率が減少している。生徒は新聞を読むことについて興味・関心があり，中には祖父母の家に行って読むという生徒もいた。
イ　研究内容⑴の週末課題について，今年度は取り組むことができなかった。教科だけでなく，学級と連携した取り組みにまで至らなかった。
ウ　活動が全般にわたり教師主導で行われた。生徒の目線で記事を選び，切り抜きの掲示や紹介など，生徒主体の活動に取り組むことができなかった。

8　おわりに
ＮＩＥ実践校の指定を受けたものの,毎年担当が替わり継続した活動ができなかった。特に今年度は人事異動で職員の入れ替わりが多く，本実践の趣旨や取り組みについて話し合う機会をとることが難しかった。
生徒に新聞を読ませると，写真付きの記事に注目が集まっていたようである。ショートスピーチのために題材を選ばせた際も，写真があってわかりやすいものから選ばれていた。だが，そのことをきっかけに他の記事に目を通し，興味のあるものや面白いと思ったものについては，友達と一緒に読んだりじっくり読み込んだりする姿が見られた。
情報を手に入れる手段として，インターネットやテレビなどの方が早くて手軽であるという点で，新聞に勝っているだろう。しかし，自分の考えを巡らせながら一つの出来事に向き合い，そのことについて意見を交わすことができるというところに新聞の良さがある。
今年度でＮＩＥの指定校は終了するが，これからも授業やその他の場面で新聞を活用することは，生徒の言語的能力だけでなく，社会性や道徳的価値観の醸成に有効であると４年間の実践を通して感じることである。